

ステークホルダーからのご意見

2004年度環境報告書の内容および東京エレクトロングループの事業活動について、ご意見をいただきました。鍵野 実様は当社グループの製品ユーザーとして、Shuh Woei Yu様は台湾のユーザーをコーディネートされる立場としてご指導いただき、大変お世話になっております。いただいたご意見を、今後の活動へ生かしていきたいと考えています。



株式会社東芝セミコンダクター社

技術企画部 技術標準担当 参事

鍵野 実 氏



The Industrial Technology
Research Institute

Vice President and General Director

Shuh Woei Yu 氏

(1) 東京エレクトロン環境報告書の感想

2005年2月京都市議定書が発効し環境問題がますます重要な課題となってきたなかで、御社の環境保全に関するポリシーは環境報告書のなかに明確に打ち出されていてわかりやすく、またそのポリシーは受身でなく大変積極的であることを感じます。

さらに、環境保全に関する事項の解説を載せて、環境保全活動の重要性と御社の事業活動と環境保全活動との関連を一般にアピールしていただいていると感じました。

(2) 東京エレクトロンのEHS活動に関する感想

半導体産業は他電気・電子産業に比べ環境負荷の大きい物質を多量に使用し、またエネルギーの消費も大きいのが特徴で、環境保全に対する姿勢は非常に重要ですが、御社は環境保全に対するポリシーを基本に具体的な活動でも目先の利益にとらわれることなく積極的に活動しています。それは、個別の顧客との装置仕様の決定、装置開発などの活動のみならずSEMI、SEAJなどの国内、国外業界団体内でもその活動をリードしていただいていることでもわかります。

(3) 東芝セミコンダクター社からみた 東京エレクトロンの印象

弊社はここ数年間新しいCR（クリーンルーム）の建設が続いており環境保全のアイテムの取り込みの要求が非常に重要な課題になっています。当然、導入する装置に対する要求も従来にも増して厳しいものになってきています。御社は仕様に関するその打ち合わせのなかで積極的に弊社の提案を受け入れていただいているだけでなく、アイデアのご提案や新CRの環境対策にも大きく貢献していただいております。心強いパートナーと感じています。

(4) 東京エレクトロンへの要望・期待等

半導体業界は世界全体ですす成長していくなかで、その環境負荷の改善が非常に重要な課題であり、またその活動のリーダーシップをとっていくことが社会的な大きな責任となっています。半導体メーカーの環境対策には我々産業を支えている多くの業界の協力が不可欠です。特に、省エネルギーに関しては、これまでは装置単独で改善する活動が多かったのですが、工場動力設備でも過剰仕様など効率が悪く改善が必要になっており、今後はこれら製造装置と工場動力双方を考慮した設計が必須です。ぜひ工場動力設計と協調した設備の開発を行っていただきたいと思います。

(1) 東京エレクトロン環境報告書の感想

御社の環境報告書の出版も第5回目を迎えられたことに、お祝いを申し上げます。この報告書は、環境・安全・衛生管理の継続的改善に対する御社の真剣な取り組みを真に物語るものです。社長兼CEO*である佐藤氏の文面にあるように、現在採用しているCSR（企業の社会的責任）の基本理念を知ることは非常に励みとなります。

(2) 東京エレクトロンのEHS活動に関する感想

御社の環境・健康・安全（EHS）活動は、半導体製造装置産業におけるリーダーカンパニーとしての位置付けを強化していることは、間違いありません。環境にやさしい製品に関連した取り組みは、御社だけでなくその顧客にも利益をもたらすものです。よりクリーンな生産技術の強化と実践が世界的に高まるなか、御社の顧客には、その報告書に説明のある通り、環境にやさしい半導体生産装置を共同で開発する機会が与えられています。

(3) ITRIから見た東京エレクトロンの印象

2004年環境報告書では、製品、事業、環境管理および社会活動について説明されています。これには包括的情報が記載されているため、この方面に興味を持つ方々がEHSマネジメントの理念や達成内容をよく理解できるようになっています。例えば、健康と安全への活動に関する記載内容は、非常に参考になります。

(4) 環境にやさしい東京エレクトロンの 製品に対するITRIの期待

御社の製品が環境にやさしいという特徴を、顧客や他の装置製造会社とわかち合えることを期待しています。そうすることで、競合他社と比べて御社の先進性がさらに強化されることとなります。

(5) 東京エレクトロンへの要望・期待等

環境にやさしい半導体製造装置への取り組みは、大変難しいEHS問題に直面しているFPD産業にも拡張することが期待されます。半導体産業で得た経験は、同一もしくは類似したEHSへの取り組みを採用するよう、FPD産業の顧客を説得するために非常に役立ちます。さらに、そのEHSマネジメントの理念を広め、実践内容を日本国外の顧客とわかち合うためにも、御社がより多くの国際的共同プログラムに参加することを強く望みます。

* 2004年8月時点